

「市民の会通信」 第一号

発行元：「開かれた市政をつくる市民の会」 事務所：〒680-0051鳥取市若桜町39 (ロゴス文化会館3F)
tel : 090-8247-5488 URL : <http://sustainabletori.com/> mail : mailto@sustainabletori.com

「市民の会通信」の 発刊に当たって

爽やかな皐月の風が肌に快い好季節を迎えましたが、皆様ご健勝にてお過ごしと存じます。

「開かれた市政をつくる市民の会」も四月に第二回総会を無事終了し、二年目の活動を開始いたしました。(総会報告は別紙資料を参照)

一昨年、市議会に於いて位置条例が強引に可決され、市庁舎新築移転が着々と進められはじめ、心ある市民の皆さまから「何とかならんすかいな」との声がしきりに寄せられていました。

我々も歯かみをする思いで模索を続けてきましたが、形式上は市議会の議決を経て法的な瑕疵はないこともあり、起死回生の有効な反撃が出来ないまま推移してきました。

位置条例裁決に当たっては、秋山議員が執拗に「六十五億円を上回る」とは絶対にないですな」と質問



開かれた市政をつくる市民の会

この子たちの未来を明るく
豊かにするため、税金の無駄づ
かいをやめさせよう！

を繰り返し、それを確認した深沢市長の答弁をうけて賛成し可決されました。

ところが、深沢市長はその舌の根も乾かないうちに庁舎新築の予算を「六十五億円から九十八億円」に増額しました。その理由は「中核市」への移行に当たって県立保健所の業務を引き継ぐために三十億円の増額が必要と言う説明でした。

しかし、中核市への移行は、正式に議会にはかられたことはなく、保健所受け入れに当たっての国と県からの財政的な裏付けは全く見通しが立っていない現状であることが分かってきました。

☆ ——— ☆ ——— ☆ ———

また、新庁舎設計の入札では、久米設計が約二億円で落札、来年七月には実施設計が完成します。

久米設計は建設予定地の基盤を1.2メートルもかさ上げすることになっています。この事実が洪水時に新市庁舎は陸の孤島になり、救援の拠点とする事など不可能という事を物語っています。

また、熊本を襲った大震災に示されるように、日本列島は地殻の活動期に入っています。

建設予定地の地盤が弱いことは周知の事実ですが、熊本規模の地震が襲った時を想定し液状化、地盤沈下など、改めて調査が必要です。

こうした情報を市民の皆さんに正確にお伝えし、多くの心ある市民の皆さんと手を携えて「開かれた市政を実現するため、この通信をテコにして頑張りたい」と考え発刊することといたしました。

「真の地方再生」を考える
6月4日フォーラムへの
積極的ご参加を！

真の地方再生を！というテーマで行われるこのフォーラムは、私たち「市民の会」の設立呼びかけ人でもあり、常に専属の講師のように御講演をいただいていた鳥取大学地域学教授の藤田安一先生が、日本科学者会議鳥取支部を中心として企画されました。詳細は同封のチラシをご参照下さい。

基調講演は、私たち市民の会が平成二十四年に主宰した講演会に講師としておいただき、千葉県我孫子市長としての経験に基づく貴重なお話を伺った福島浩彦氏です。会員の皆様だけでなく、是非、多くの皆様がお誘い合わせの上、ご参加頂きますようお願い申し上げます。



福島 浩彦氏

協力券(五〇〇円)をご購入いただき
フォーラムの成功を支えて下さい。

「鳥取市の財政の問題点」

学習会の「ご案内」

四月に行いました藤田安一先生の講演で明らかになった鳥取市財政の危機的状況の全貌を、今少し深めて吾々ひとりひとりの確信に高めるため、左記の日程で学習会を計画いたしました。会員の皆さまだけでなく、市政に関心をもっておられる市民の皆さんにも広く呼び掛けて成功させましょう。

日時 二〇一六年八月十一日(土)

午後二時～四時

場所 遷喬地区公民館

問題提起① 「鳥取市財政の現状」

鳥取市議会議員 橋尾泰博氏

問題提起② 「合併特例債の

問題点とその影響」

市民の会常任幹事 下田康生氏



鳥取市の財政は
危機の時代に
突入!

知はちからなり!
まず知ることから闘いは
始まるのだ。

一緒に学びましょう!

・「歴史を学んだ者のつぶやき」

ナチスが最初共産主義者を攻撃したとき

私は声をあげなかった

私は共産主義者ではなかったから

社会民主主義者が牢獄に入れられたとき

私は声をあげなかった

私は社会民主主義者ではなかったから

彼らが労働組員たちを攻撃したとき

私は声をあげなかった

私は労働組員ではなかったから

そして、彼らが私を攻撃したとき

私のために声をあげる者は、

誰一人残っていないかった

ドイツのルター派の牧師

マルチン・ニーメラー

私は、西洋史を学び、教師になって以来五〇年間に歴史を語り続けてきた。その結果「歴史が動く音」が聞こえるようになってきた。今、歯車が軋むように回り始めたのが聞こえる。そして、この詩が脳裏によみがえる。鳥肌の立つような怖さを感じている。

歴史探訪クラブ主宰 谷口 肇

＊ 編集後記 ＊

今年「猿年」見ざる 聞かざる 言わざる」という「三猿の訓」は年賀状の定番であった。

しかし、舛添東京都知事の唾棄すべき税金の無駄遣い。国民に課税する大統領が、パナマに財産を隠匿し脱税を企てる。東京オリンピックを巡る無駄遣いと腐敗。「政治家は息をするように嘘を言う」という言葉を地で行く政治家たちの言動。枚挙にいとまのない政治の腐敗堕落を見る時、「見ざるを得ず 聞かざるを得ず 言わざるを得ず」の「新三猿の訓」で「週刊文春」の向こうを張って、市政の不明朗さ、信じられぬ無駄遣いの実態など、市民に明らかにすることが必要と考え、この通信の発行に踏み切った。

しかし、調査したり監査したりする権限すらなく、金もなく、おまけにスタッフは年老い、若さはない。ナイナイ尽くしだ。

ただ、情報公開請求権はある。公開質問状も出せる。場合によっては監査請求も可能で裁判闘争も不可能ではない。そして何より多くの市民の心温まる激励と援助がある。

頑張ります。

